

美馬JC

[徳島]

「美馬はひとつ」を合い言葉によき理解者としてバックアップ

美馬

JCの活動エリアは四国・徳島の西部にあつて

その南端には西日本第2位の標高を誇る霊峰剣山があり、そこから流れる吉野川支流穴吹川は水質日本一にも選ばれたことがある清流で、自然環境に恵まれた土地です。

またこの近辺では、ブランド地鶏として全国一出荷されている「阿波尾鶏（あわおどり）徳島名物の阿波踊りと掛けています」の生産も盛んで、吉野川のアユや半田そうめん（規格外の太さのせいもあつてこしが強くスタチをつゆに入れて食べると最高です）と並んでこの地域のおいしい特産です。

エリア人口は、5万人強で、2005年3月の町村合併でそれまでの5町2村から美馬市とつるぎ町になりました。美馬JCは1981年の設立以来「美馬はひとつ」を合い言葉に活動を続けてきましたが、今後もその気持ちを变えずに活動を続け、次の希望に続けたいと思つています。メンバー数は設立当初は60名近くいたのが一時は30名を割るまで減少しましたが、現在は37名で2世メンバーは6名います。今年度は、「自己再発見」仲間と歩む新たな挑戦」を基本理念として、ASPAAC高松大会へ副主管として参画したり、徳島ブロック会員大会を主管するなど、仲間と歩む活動をしています。



河合次年度ブロック長・和田理事長を囲んで

また7月2日に行われたブロック会員大会では、16年ぶりにブロック会長を出すことも決まりました。

シニアクラブとしても20名近くのメンバーがお祝いに駆け付け、和やかで特別なひとときが過ぎました。小さな街なので日頃から何かと交流が多く、シニアクラブとしての活動は、新シニアの歓迎懇親会と現役JCの総会（1月決算承認&卒業式、9月次年度組織承認、12月次年度事業・予算承認&忘年会）への出席くらいしかありませんが、シニアのメンバーとも現役のメンバーともよく会います。いつまでもJCのよき理解者としてバックアップしていきたいと思つています。

日本JCシニア・クラブ

徳島ブロック担当幹事 南恒生



会員大会懇親会で乾杯のあいさつをする原政義シニアクラブ会長



懇親会風景

